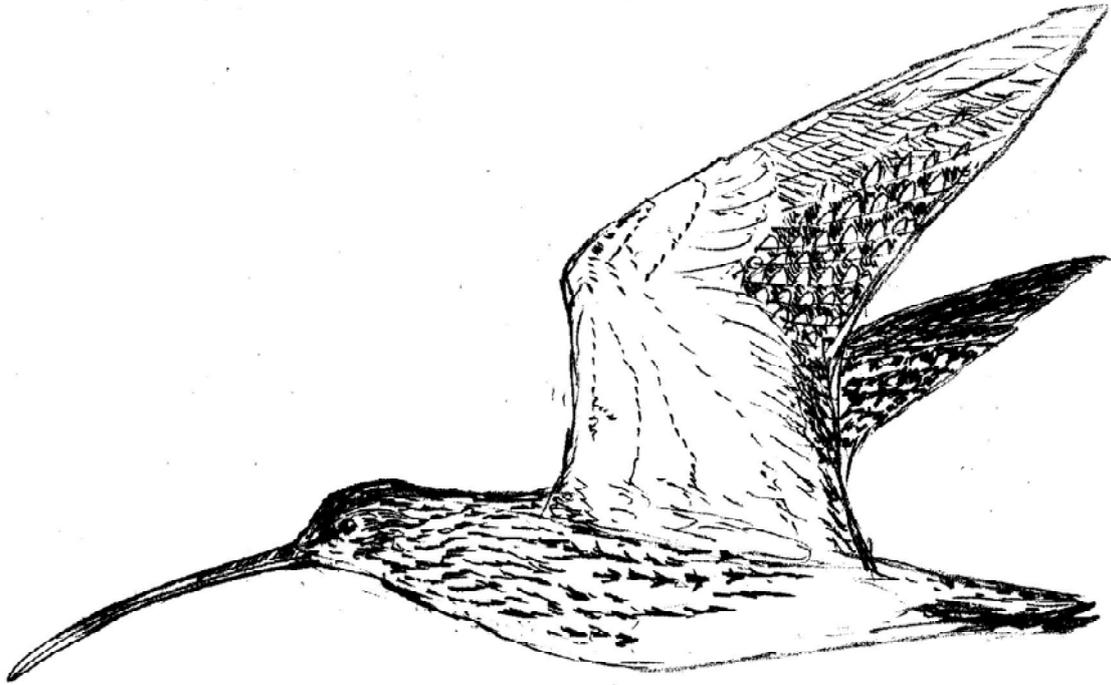


しろちどり



第76号

2013年 6月 日本野鳥の会三重

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

しろちどり 76号(2013)

藪が消える

津市 平井正志

その1. 家の近くにいつも散歩する公園がある。ヤマモモやアカガシなど様々な雑木と呼ばれている木が植えられていて面白い。秋にはクヌギの落ち葉が歩道につもり、春にはクスノキの赤い落ち葉が舞う。そこからここに藪があり、冬の間アオジ、シロハラはいつも見ることができた。姿はみえないがウグイスの笛鳴きもよく聞こえた。しかし、その落ち葉は丁寧に集められて、捨てられる。また、雑草やハギの茂みもきれいに刈り取られてしまう。もっともその公園はかなり広く、掃除が完璧にできるわけではないので、アオジやシロハラの棲みかもまだあるのだが。--- そういえば、津の町中の偕楽公園もずいぶん手が入られ、落ち葉もないし、藪もない。ひこばえの木もない。こちらは町中のせいか、人手が十分に入っている。どうやら、公園はそうのように管理するものとされているらしい。友人の話によると偕楽公園は鳥が減っておもしろくなくなったという。ウグイスが巣を作り、アオジのつがいがひっそりと冬をすごす、茂みがほしいものだが。

その2. いつも鳥類の標識調査をする青山高原も最近はずいぶん変化している。シカが増えたせいであろう。下草や灌木が著しく減っている。残っているのはイノモトソウ、トリカブト、アセビ、シキミなど毒のあるものがほとんどである。ヒサカキも幾分は残っている。それに加え、これまで一面に地面を覆っていたスズタケまでも葉がほとんどなくなり枯れている。それでも断崖に張り出した茎についている葉だけは青々として残っている。どうやら冬の間シカに食べられたようだ。シカのとどかない、断崖だけが残されているようだ。シカに繰り返し葉を食べられ、特に冬の間、弱って枯死したもののようだ。結局、林床は明るくなって藪がなくなっている。

日本の林は本来、高い木とその下に伸びる低木、灌木、それに下草、様々な木や草の種類から成り立っている。鳥はその林の中で様々な生き方をしている。高い木の梢

付近で餌を採るオオルリやサンショウウイ。灌木や地面近くで餌を採り、巣をかけるウグイスやヤブサメ。高い梢でさえずるが、地上でミミズなどを採るクロツグミやアカハラ。林の樹冠の下の広い空間で餌を採るキビタキ、むろん木の幹や枯れ木でさえも、キツツキの棲みかである。林の複雑な構造が様々な鳥が生きることを支えている。鳥以外の生物にとってもそうであろう。生物の種における多様性である。

(次ページへ続く)

=====	目	次	=====
藪が消える	-----	1	
表紙の言葉	-----	1	
中勢地区オオタカ繁殖状況調査報告	-----	2	
アホウドリの衣・食・住	-----	11	
三重県に飛来したシギ・チドリ	-----	16	
2012年秋から春へ	-----	21	
事務局だより	-----	22	
日本野鳥の会三重 2013 年度総会	-----	24	
野鳥記録	-----	28	
探鳥会報告	-----	31	
編集後記	-----	35	
=====			



ヒガラ

表紙の言葉

ダイシャクシギ

津市 平井正志

この大型のシギも見ることが少なくなった。それでも五主干潟では少数が毎年越冬するようだ。広い干潟こそこの鳥に似合う。いつまでもそんな干潟であってほしい。この鳥の繁殖地、シベリアの内部はどうなっているのだろうか、開発は？地球温暖化の影響は？それも気になる。

しかし、その多様性がくずれようとして
いるのではないか。里山では、いや里山ば
かりでなく、かなり深い山の中でもシカに
よる同じような変化が確実に起こっている。

いったい山の鳥はどうなっているのだろ
うか？すぐには変化が見えないかもしれな
い。山の鳥の数を把握するのはかなり難し
く、だれもデータを持っていないが、鳥の
数の変化は既に起こっているのではないだ
ろうか？おそらく都市の公園でも下草をな
くし、落ち葉を徹底的に集めて捨てると同
じようなことが起こる。公園で繁殖する鳥、
越冬する鳥、渡りの時期に立ち寄る鳥にも
影響が出るであろう。だれもが気が付くよ
うな時ではもう遅い。

山も公園もすぐに手を打つべきであろ
う。シカについては色々検討されているよ
うだが、広大な山林で効果のある被害回避
はなかなかむずかしい。フェンスなども風
や倒木などで倒れているものが多い。しか
し、公園の方は考え方を考えるだけですむ。
公園は人の心をいやすためのものではな
いが、それは植えられて咲いた花を見るだけ
でなく、新緑、紅葉、落ち葉、虫や鳥、そ
こにある様々な自然を楽しむことも含まれ
るはずである。やはり、公園に藪があつて
もよいのではないだろうか？むしろ積極的
に本来の自然にまねた部分を増やし、生物
の多様性の保持に努めるべきでないだろ
うか。

中勢地区オオタカ繁殖状況 調査報告

橋本富三

1 経緯

2002年から三重県の中勢地区におい
て、農業用ため池の堤体改修工事が予定さ
れた。この工事に付帯して、ため池周遊道
路を建設する計画が地元から出されていた。
周遊道路の工事が実施されるとオオタ
カの繁殖地すぐ近くまで改変されることと
なり、繁殖地が放棄される危険性が高い。
これについては野鳥の会からの申し入れに
より、計画が見直され、周遊道路計画につ
いては削除し、堤体改修工事とそれに付帯
する工事および管理道路の工事が実施され
ることとなった。

当該地区のオオタカは、以前から野鳥の
会会員により観測されており、繁殖が確認
されていた。野鳥の会としては工事による
オオタカ繁殖に対する影響が大きいとして
工事主管部署に、繁殖期間中の工事につ
いて配慮して欲しい旨の申し入れを行った。
その結果、影響の少ない9月から12月の
工事期間とすることとなった。

なお調査に当たっては営巣木調査時を除

き、巣から十分離れた距離から、双眼鏡や
20倍程度のスコープを使用して、最低2
人以上で、毎回4時間程度の観察を行った。
観察期間はオオタカの繁殖期に合わせ、1
月から始め、繁殖が成功した場合には8
月まで継続した。

2 繁殖地区の環境

三重県中勢地区に位置し、いわゆる里山
の環境にある。周囲はため池や田畑、スギ
が植林された小山、雑木林等が散在し、オ
オタカ、ノスリ、サシバ、ミサゴなどの猛
禽類やフクロウやトラツグミ等比較的珍し
い鳥類、サル、シカ、ノウサギ、キツネ等
の哺乳類なども散見されたる豊かな生態系
が残された貴重な環境である。

3 オオタカの概要

オオタカは全国の低山、里山に生息し、
主としてハト類やカケス、ヒヨドリ等の鳥
類を捕食する中型のタカである。巣はマツ
にかけられる事が多いが、マツ枯れでマツ
が少なくなった現在、スギ等に営巣するこ
とも多い。鳴き声は「ケッ、ケッ、ケッ」
「キャッ、キャッ、キャッ」等がある。

オオタカの繁殖ではつがい1月から2
月の初めに形成されるのが普通である。巢
作りは早いもので2月上旬から始まる。

しろちどり 76号(2013)

一般的には産卵の 1 ヶ月半前に始まると考えられる。巣作りとともに交尾が始まり、産卵までに日に何度となく行われる。産卵は多くの場合、4月上旬から下旬に行われ一卵ずつ2～3日をかけて3～4卵を産む。抱卵日数は40日前後であり孵化後35～40日で巣立ちを迎える。これは本州中部では6月中旬から7月上旬にあたる。

巣立ち後も約1ヶ月は親の世話をうける。環境省鳥類レッドデータブックでは、オオタカは従来は絶滅危惧種Ⅱ類に認定されていたが全国的に漸増しているとして、2006年12月に準絶滅危惧種に変更された。

4 調査年度毎の繁殖成否結果

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
成否	?羽 巣立	2羽 巣立	失敗	失敗	2羽 巣立	2羽 巣立	失敗	失敗	未定

2005年は7月にヒナの鳴き声確認。幼鳥の姿は確認していないが巣立ちしたものと推定。繁殖成功率 50%



左:オオタカ成鳥♂ 2011/3/5

右:オオタカ幼鳥 2006/7/29



5 調査年毎の繁殖状況概要

① 2005年

1月16日に親鳥の姿、鳴き声が確認され、4月9日には交尾を確認、6月19日営巣木の調査において警戒鳴きがあり、7月19日にヒナの鳴き声を確認したがその頃から近くでスズメ脅しの爆発音あり。親鳥、幼鳥ともに移動したものと推定される。

② 2006年

1月26日に親鳥の姿、鳴き声が確認され、2月19日に交尾を確認、4月26日には巣の近くにあるため池の堰堤上の人に対し警戒鳴きが見られた。6月17日の営巣木調査時、警戒鳴きがあり7月29日に幼鳥2羽が飛翔しているのが確認された。

③ 2007年

1月20日にオスの姿が見られ、2月10日に交尾と順調に繁殖するかに思えたが、7月7日に営巣木調査を実施したところ、巣の半分以上が枝から垂れ下がり、警戒鳴きも見られなかったため繁殖は失敗したと見られる。原因は6月14日 49.5mm または24日 65.0mm の降雨による枝折れの可能性がある。また人の侵入による営巣放棄も考えられる。

④ 2008年



1月6日にオスの姿が見られ3月16日には交尾も確認された。しかし4月27日以降姿を観察できる事が少なくなっていた。営巣木調査を6月10日に実施したところ、完全に巣が落下しており、30mほど北に新しい巣が発見されたが警戒鳴きもなく繁殖失敗が確認された。

⑤ 2009年

1月18日にオスの姿が確認され、3月1日に交尾時の鳴き交わりと思われる鳴き声が複数回確認された。6月13日にはヒナと思われる鳴き声が聞こえた。7月14日に営巣木調査を行い、複数のヒナの鳴き声が確認され、8月3日に幼鳥2羽の飛翔を確認した。

⑥ 2010年

1月10日に営巣木付近の工事現場でオオタカの食痕を発見した。

2月28日から6月5日にかけて姿、鳴き声が確認されたが、交尾や枝折り行動は確認できなかった。6月18日に営巣木調査を行い警戒鳴きのみ見られたため繁殖行動が継続されていると判断した。

7月17日に幼鳥1羽を確認し、7月21日、8月1日には幼鳥2羽の飛翔を確認した。

左:オオタカの食痕
(カルガモ) 2010/1/10

⑦ 2011年

1月23日にオスの姿が確認され、2月19日に交尾が確認された。4月10日には巣に近づいたバス釣人に対して警戒鳴きと思われる鳴き声も聞かれた。しかし5月28日以降姿が見られなくなったため6月12日に営巣木調査を実施したが、巣の先端が傾いた状態で警戒鳴きもなく繁殖失敗が確認された。

⑧ 2012年

2月5日にオスの姿が確認され、2月18日に交尾が確認された。4月28日から姿が見られなくなった為、5月19日に営巣木調査を実施したが巣が完全に地上に落下しており、警戒鳴きもなく繁殖失敗が確認された。

⑨ 2013年

1月5日にオスの姿が確認され、3月9日には交尾、枝折り行動が確認された。

ため池の堰堤改良工事がほぼ完了したことから、工事主管部署から4月以降の調査要請は出されていない。

6 考察

①9年間にわたる観察からみたオオタカの生態

・止まる木はある程度限定されており、巣の近くの見晴らしの良い高木に止まることが多い。

・つがい行為は巣の近くで行われることがほとんどである。

・繁殖行動中、巣の近くにきたカラス等の外敵を追い払うような威嚇行動がみられた。

・巣が落下しない限り、毎年同じ巣を使い続けている。

・巣の下に落ちている羽根や骨から見ると、エサはドバト、カケスが多い。

・営巣木のスギはアカマツなどに比べ暴風雨等により巣が落下する可能性が高いと思われる。

②繁殖状況について

調査期間における繁殖成功率は50%にとどまっている。

2007年2月に日本オオタカネットワークのアンケート結果速報によると全国平均で、約80パーセントが成功しており、今回の対象は平均より低い値に留まっている。



右：営巣木 2008/6/10

③繁殖を妨げる要因について

原因の一つとして巣の落下があげられる。台風等の強風や豪雨による巣の落下が直接の要因であるが、間接的には営巣木がスギであることが考えられる。スギはアカマツに比べ車枝になることが少なく、また枝間の角度が開いている為巣が落ちやすくなっている。1990年代初期はこの地区でも豊富にあったアカマツで営巣していた。しかしマツノザイセンチュウによる被害のあと、今では巣を掛けるのに適当な樹種がこの地域にないのであろう。アカマツなど適切な樹種を植林することも繁殖率向上につながると思われる。

次に人によるオオタカの行動範囲への侵入が考えられる。営巣木下の直近にある、ため池に、バス釣り人がボートにより侵入した際、警戒鳴きと思われる鳴き声が複数回観察されており、このようなテリトリーへの侵入が頻繁に起きると、デリケートな抱卵期であれば営巣の放棄につながる可能性が高い。営巣木周辺への人の侵入を制限することが肝要である。

④工事主管部署との関係

営巣木近くでの工事については、工事主管部署との話し合いにより、毎年1月から幼鳥が巣立つ8月までは工事を実施しない方向で調整を行い、理解をいただいた。また、繁殖が失敗に終わった年については、それが明確になった時点で工事の実施が可能であることを連絡し、少しでも工事が進捗するよう配慮した。これらの結果としてオオタカの繁殖にほとんど影響を与えることなく工事を実施することが出来た。工事主管部署の方々には大変お世話をかけたことに謝辞を表したい。

7 調査者

落合修 川口久美 西浦克征
橋本富三 平井正志 (アイウエオ順)

8 終わりに

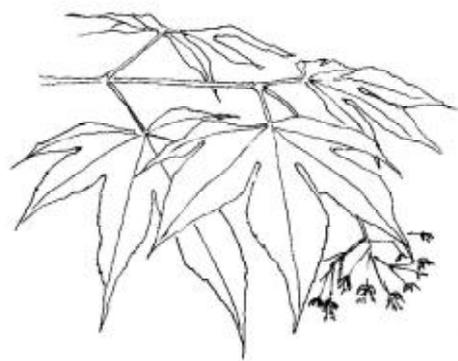
9年間の調査は長いものであった。なるべく天気の良い日を選んで調査したが、それでも現地へ行ったら冬の吹雪で周囲が何

もみえなくなった事も何度かあったし、春先はスギ花粉に悩まされた。何しろ杉山のあちこちから山火の煙のように花粉が飛び出す。蒸し暑い6月の営巣木調査はちょっとした登山で、汗が止まらなかったし、8月の炎天下での4時間は、ずっと蒸し風呂状態であった。

しかし、幼鳥が青空に羽ばたくのを見ればそんな苦勞も吹き飛んでしまう。ちょっとおおげさだが、自分が親鳥になって巣立つわが子を見守るような気分であった。

一方楽しいことも沢山あった。ため池の堤防をノウサギをくわえて歩くキツネ、遠くから用心深くこちらを見るシカ、柿の木に登ってのんびり日なたぼっこをする親子のサル。親鳥のあとを一生懸命ついて歩くコチドリの子達。テリトリーに侵入する他のオオタカとのバトル。春、北へ渡るサシバの群れを初めてみたのもこの頃であった。

これらは定期的に定点観察をして初めて得られるものであろう。会員の中にはすでに定点観察をされている方も沢山おられるが、未体験の皆様も自分のフィールドを決めて定点観測を始められてはいかがでしょうか。通りすがりの観察では得られない何かがあるに違いない。



イロハカエデ

表: 中勢地区オオタカ繁殖状況調査結果

年	月	日	天候	親鳥					雛・幼鳥		備考	
				♂姿	♀姿	♂♀不明	鳴声	交尾	枝折	採餌		姿
2005年 (平成17年)												
2005	1	16	晴・雨			2						
2005	1	27	晴				1					
2005	2	6	曇・雪			1	1					
2005	2	18	晴・曇				1					
2005	3	2	晴	1		4	1				トラツグミ鳴き声	
2005	3	12	晴・曇	4	1	1	1				♂♀を同時に観察	
2005	4	9	晴	3	3	2	3	2			営巣木付近でカラスを追い払い	
2005	4	28	晴	4					1			
2005	5	1	晴				1					
2005	5	11	晴									
2005	6	5	晴									
2005	6	19	晴		1		1				営巣木調査: ♀警戒鳴き有り	
2005	6	21	曇・雨	1								
2005	7	3	曇・雨									
2005	7	19	晴							2	雛の鳴き声	
2005	8	7	晴								営巣木再調査: 親鳥、幼鳥とも未確認 スズメ脅しの爆発音で移動か?	
2005	8	18	晴									
2006年 (平成18年)												
2006	1	26	曇	4	3		3				♂♀を同時に観察	
2006	1	31	雨		2		1					
2006	2	12	晴	5	9						♂♀を同時に観察	
2006	2	19	曇	5	6		2	2	1		♂枝折り	
2006	3	4	晴	8	10		1	3	1		♀枝折り	
2006	3	12	曇・雨	5	7		2	2	4		♀枝折り	
2006	4	8	曇	8	12		2	4	5		♂♀枝折り 別のオオタカに対し警戒行動	
2006	4	26	晴	7		1					堰堤上の人に警戒鳴き	
2006	4	29	曇	4	5	2	1				♂カラス追い払い	
2006	5	14	曇・晴	8	1						♂トビ追い払い	
2006	5	27	雨	3			2					
2006	6	3	曇			1			1		営巣木へヒヨドリ大の餌運び?	
2006	6	17	曇・晴		8		1		1		♀伝書鳩を狩り 営巣木調査: 警戒鳴き有り	
2006	7	15	晴		1	4			1	3	雛にエサやり?	
2006	7	29	晴							8	1	幼鳥2羽の飛翔確認
2006	8	12	曇			3				6	2	幼鳥がしきりに鳴く
2006	8	20	曇・晴									

注: 数字は当日の観察回数を示す。

注2: 営巣木とはオオタカの巣のある木を示す。

表：中勢地区オオタカ繁殖状況調査結果(続き)

年	月	日	天候	親鳥						雛・幼鳥		備考
				♂姿	♀姿	♂♀不明	鳴声	交尾	枝折	採餌	姿	
2007年（平成19年）												
2007	1	20	曇・晴	2		1						
2007	1	27	晴	5			1		2			♂枝折り
2007	2	10	曇	5	8	1	1	1	2			♂枝折り
2007	2	24	晴	5	10		2	2	1			
2007	3	3	曇・晴	5	4		2	1	1			♂食事後の「嘴こすり」動作
2007	3	17	晴	3	5		2	1				
2007	4	1	晴	2			1					
2007	4	28	晴									
2007	5	12	晴	1	5	1	1			1		コナラの木の枝で採餌 エサはドバト
2007	5	19	雨・晴	5	3							
2007	6	13	曇		2		2					
2007	6	24	曇・雨				2					
2007	7	7	雨		1							営巣木調査：巣垂れ下がり、警戒鳴き無し
2007	7	19	曇									営巣木再調査：巣垂れ下がり、警戒鳴き無し
2007	7	21	雨		3							
2007	8	4	曇									
2007	8	11	晴									
2008年（平成20年）												
2008	1	6	晴	1								
2008	1	20	曇			3	1					ミサゴが営巣木付近に止まると警戒鳴き
2008	2	2	晴	3		3	5		2			♂枝折り
2008	2	16	雪・晴	5		2	2					♂がキジバトを追いかけるが途中でカラスからモビングされる
2008	3	1	曇・雨	3			4					
2008	3	16	晴	4	3		2	1	1			♀が枝折り
2008	4	5	晴	5	6		1	2	3			♀が枝折り
2008	4	27	晴	1								
2008	5	6	晴			2						
2008	5	18	晴				1					
2008	6	7	晴									
2008	6	10	晴	1	1							営巣木調査：昨年まで使用していた巣が落下し腐敗 昨年の営巣木から30m北のスギに新しい巣発見 しかし警戒鳴きはなし

注：数字は当日の観察回数を示す。

注2：営巣木とはオオタカの巣のある木を示す。

表: 中勢地区オオタカ繁殖状況調査結果(続き)

年	月	日	天候	親鳥				雛・幼鳥		備考	
				♂姿	♀姿	♂♀不明	鳴声	交尾	枝折		採餌
2009年(平成21年)											
2009	1	18	曇	1			1				
2009	1	25	晴	2		2	2				
2009	2	7	晴	2		2	4				
2009	2	21	曇・晴	3			1				
2009	3	1	曇・晴	1	5		2			交尾時の鳴き交わしと思われる鳴き声	
2009	3	7	曇・晴	4	1		4			ノスリ追い払い	
2009	3	15	晴			1	4			営巣木付近に20匹程度のサル観察	
2009	4	5	曇	2	3	1	2				
2009	4	19	晴								
2009	4	29	晴	1		2	1			営巣木付近でカラス追い払い	
2009	5	10	晴			1					
2009	5	23	晴				1			釣人に対する警戒鳴とみられる	
2009	6	13	曇		4		3		1	池に入った釣人に対する警戒鳴? 雛の鳴き声	
2009	6	27	晴								
2009	7	11	晴				1		1	カラスに対する威嚇鳴? 営巣木調査: 雛と思われる鳴き声	
2009	7	14	晴						1	1	営巣木再調査: 複数の雛の鳴き声
2009	7	18	曇		1						
2009	8	3	曇						7		幼鳥2羽飛翔
2009	8	8	曇・晴		1				5		幼鳥1羽飛翔
2010年(平成22年)											
2010	1	10	晴								営巣木付近の工事現場でオオタカの食痕(カルガモ)
2010	1	24	晴								
2010	2	7	晴・雪								
2010	2	28	雨・曇			2					トビを追うように飛翔
2010	3	8	晴	3	1						
2010	3	14	晴			2					
2010	3	21	晴				1				
2010	4	11	雨・曇			1	1				ノスリ追い払い
2010	4	29	雨・晴			1					
2010	5	9	晴			1					ため池に入った釣り人のボートに警戒鳴き
2010	5	22	晴	2	2						
2010	6	5	晴		2						
2010	6	18	雨			1					営巣木調査: 警戒鳴き有り・古い食痕(カケス)
2010	7	3	雨・曇				1				
2010	7	17	曇・晴		1				1	1	幼鳥1羽確認 幼鳥の鳴き声確認
2010	7	21	晴			1	1		4		営巣木再調査: 警戒鳴き・幼鳥2羽飛翔
2010	8	1	晴			1			4		幼鳥2羽飛翔
2010	8	7	晴			1					

注: 数字は当日の観察回数を示す。

注2: 営巣木とはオオタカの巣のある木を示す。

表: 中勢地区オオタカ繁殖状況調査結果(続き)

年	月	日	天候	親鳥							雛・幼鳥		備考
				♂姿	♀姿	♂♀不明	鳴声	交尾	枝折	採餌	姿	鳴声	
2011年(平成23年)													
2011	1	9	晴										
2011	1	23	晴	1		2							
2011	2	5	晴										
2011	2	19	晴	3	3			1					♂♀を同時に観察
2011	3	5	晴	6	4		1	4	1				♂枝折り
2011	3	13	晴	4	6			6	1				
2011	3	19	雨・曇	5	5			6					
2011	4	10	晴	1			2						バス釣り人に対する警戒鳴きのような声
2011	4	29	晴			2							
2011	5	15	晴	1		2							営巣木付近に飛来したカラス追い払い
2011	5	28	雨										
2011	6	12	曇										営巣木調査: 巣が傾き先端部落下 警戒鳴き無し
2011	6	25	晴										
2012年(平成24年)													
2012	1	7	曇・晴				1						
2012	1	21	雨・曇										
2012	2	5	晴	1									
2012	2	18	雪・晴	2	4	1	2	1					♀カラス追い払い
2012	3	3	晴	3	4			2	1				♂♀とも枝折り
2012	3	11	晴	2		2	2						
2012	3	19	晴	1		1							
2012	4	7	晴			1							
2012	4	28	晴										
2012	5	5	晴										
2012	5	10	晴										
2012	5	19	晴										営巣木調査: 巣が完全に落下 警戒鳴き無し
2013年(平成25年)													
2013	1	5	晴	1			1						
2013	1	19	晴	1	1								
2013	2	3	晴	3									
2013	2	16	曇・晴	1		1							
2013	3	2	雨・雪	1		1							
2013	3	9	晴	4	4			2	1				♂♀同時に確認 ♂枝折り
2013	3	16	晴										

注: 数字は当日の観察回数を示す。

注2: 営巣木とはオオタカの巣のある木を示す。

アホウドリの衣・食・住

今野怜（北海道帯広市）

アホウドリは外洋性の海鳥で、繁殖期以外は海上で過ごし、陸に降り立つことはありません。かつては、台湾の近くから小笠原諸島までの北西太平洋の島々で少なくとも数十万羽が繁殖していたとされますが、その羽毛を目的とした乱獲により、一時は絶滅が宣言されるほど減少しました。幸い、絶滅はまぬがれましたが、現在でも集団繁殖地（コロニー）があるのは、尖閣諸島と伊豆諸島の鳥島のみです。個体数は、約 3,000 羽といわれるまでに回復していますが、過去と比較するといまだわずかな数でしかありません。尖閣諸島では周知のとおり、国家間の問題により、現状の確認すらままならない状況のため、アホウドリの保護対策はおもに鳥島で行なわれてきました。

私は近年、鳥島でおもに環境省が行なうアホウドリの保全事業に、山階鳥類研究所の協力調査員として参加し、アホウドリの繁殖状況の調査や、後に述べる小笠原へのヒナの移送などに関わってきました。野鳥に興味がある方ならば、アホウドリについての情報に接する機会もあるのではないかと思います。それらは、保護活動について着目したものが多く、鳥そのものについて取り上げられることは少ないようです。このような機会を与えていただきましたので、アホウドリのくらしぶりを中心に、鳥島とアホウドリについて紹介したいと思います。

鳥島について。

鳥島は東京の南約 600km にある直径 2.5km 程の無人島です。日本でも有数の活火山で、近いところでは 1902 年と 1939 年に大噴火、2002 年に小噴火を起しており、島の大部分は溶岩や火山礫で覆われています。鳥島へは通常、北に約 300km 離れた八丈島から、チャーターした漁船で向かいます。荒れることの

多い太平洋を 15 時間～ 20 時間の航海です。鳥島滞在中には外からの補給はありませんので、必要な食料や資材はすべて上陸時に持込まなくてはなりません。島で調査隊が暮らす場所は標高 90m にあり、つらい荷揚げが上陸後、最初の仕事です。島には、1965 年の群発地震によって閉鎖されるまで、台風観測の前哨基地として気象庁の測候所（気象観測所）がありました。

戦後、アホウドリを再発見し、初期の保護活動を行なったのは測候所の方々でした。測候所は島の西側の初寝崎（はつねざき）といわれる地域にありました。この周囲は広く草に覆われた緩やかな斜面で、噴火に対して「比較的」安全とされており、現在の調査でもこの場所を居住地として利用しています。

島ではアホウドリのほかクロアシアホウドリが多く繁殖しています。1930 年代にはコアホウドリも繁殖していましたが、現在は時折やってくる程度です。そのほか、オーストンウミツバメ、オナガミズナギドリ、カンムリウミスズメ、イソヒヨドリが繁殖期に見られます。在来の陸生哺乳類はいませんが、外来のクマネズミが多く生息し、小型の海鳥への影響が問題になっています。とくに、オーストンウミツバメは、数万～数十万羽がいたとされていますが、現在はごく少数が生息するにすぎません。これらに加え、秋から春には、渡っているのか、迷っているのかわかりませんが、オオワシからキクイタダキまで、大小を問わず様々な鳥の記録があります。

アホウドリの「衣」

アホウドリの成鳥は体重 5kg 前後、立っている時の頭までの高さは 65cm 程、翼開長は 2.3m 内外で、最も長い初列風切は 38cm 前後の長さがあります。胴体は密に羽毛で覆われています。とくに胸から腹は、体の内側に向かって大きくカールした腰の強い羽毛が重なり合い、厚

いクッションのようになっています。時として不本意ながら？見せる胴体着陸の後でも平気な顔をしているのはこのおかげかも知れません。

夏の海岸では、アホウドリ類のものを含め、換羽で脱けた海鳥の羽毛が漂着しているのを見かけます。種まで判断するのは難しいですが、アホウドリ類の初列風切はいずれの種も大きく、白い羽軸が目立つため、すぐにそれと判ります。

アホウドリは図鑑で「成鳥」とされるような、体が白く、頭部が金色になるまでには、十数年かかります。生後3年くらいは、遠目にはほぼ全身が黒く、嘴だけがピンク色です。早い個体では5歳で繁殖を始めますが、この頃でもまだまだ暗色の羽毛が多く残っています。写真図鑑で若鳥や亜成鳥などとされている個体も、比較的若いことは確かですが、多くはすでに繁殖可能な年齢です。体が白くなる過程は個体により多様で、繁殖地では様々な羽色の鳥たちが見られます。

アホウドリの「食」

アホウドリの食べ物はイカや魚卵などです。多くの海鳥類がそうであるのと同

様に、アホウドリ類も長生きで、コアホウドリでは60歳以上の鳥が子育てをしている例が知られています。生の魚介はよほど体によいのでしょうか？アホウドリの嘴は長さ14cm前後と巨大で、咬む力は尋常ではありません。閉じた状態では判りにくいのですが、嘴は眼の下まで開く上に、上下の合わせ目は刃物のように鋭く、大変に危険です。

発信機を装着した調査によって、鳥島で子育てをする親鳥が餌を採るのは、島の近海ではなく、おもに伊豆諸島北部と、千葉県や茨城県の沖であることがわかっています。これらの海域と鳥島は直線距離でも前者とは450km、後者とは600kmも離れています。「楽に」往復するためなのか、繁殖地に滞在するアホウドリの数は風向きによって大きく変化し、南風が吹くと繁殖地の鳥の数は減り、北風が続くと繁殖地はにぎわいます。風による数の変化は劇的で、夕方には繁殖地に200羽いた鳥たちが強い南風が吹いた翌朝にはたった数羽になることもあります。それでも長距離の往復はやはり大変なのか、繁殖地にいるあいだの親鳥たちはよく眠っています。



ダンスをするつがい、口は大きく開く

ヒナは親鳥から口移しで餌をもらい、3月になると親鳥と変わらぬくらい大きくなります。丸々と太ったヒナは、黒い羽毛の生えた水風船のようで、嘴と水かき付きの脚こそあれ、優雅に飛ぶ親鳥とはかけ離れた姿です。この頃、巣の周りにはヒナが吐き出した様々な物が見られます。イカの顎（からすとんび）などのほか、ロープの切れ端や、プラスチック片といった人工物が目立ちます。親鳥が誤食したもののほか、漂う人工物に産みつけられた魚卵と一緒に食べたものもあるようです。害のないものならばよいのですが、なかには釣り針のついた仕掛けもあります。実際、繁殖地では釣り糸が口から垂れた鳥や、飲み込んだ釣り針が原因で死んだ鳥を見ることがあります。たとえ生きていても、すべてを捕獲して針や糸を外すことは不可能です。さらには、飛び立てずに洋上で死んだ鳥も当然いるだろうと思うとやりきれません。

アホウドリの「住」

アホウドリは留鳥ではありません。鳥島に10月初めに飛来し、子育てをした親鳥の大半は、4月末にはまだ飛ぶこと

のできないヒナを残して島を去ります。ヒナは親鳥に遅れること約1か月、絶食と飛ぶ練習により細い体となって巣立ちます。発信機を取り付けた調査によって、島を離れた鳥たちは日本の東沖を北上し、アリューシャン列島近海やアラスカ湾にまで行くことがわかっています。なんとなく暖かい海で生きる鳥のようにも感じられますが、初夏から夏のおもなすまいは霧にかすむ北の海です。

若いアホウドリは、巣立ってから3～4歳で島に戻るまでの期間は、常に海上で過ごし、陸に着地することはありません。繁殖地では、数年ぶりの地上に戸惑っているのか、足元のおぼつかない若い鳥を観察することがあります。若い鳥は島に戻ると、「婚活」を始めます。ふらふらと遊び歩く？期間を経て、雄は将来、巣とする場所を陣取ります。そして、その場所を雌が訪れ、求愛ダンスを繰り返すうちにつがいが成立してゆきます。この過程では、ひとたび登場すると複数の若い雌が駆け寄ってくる色男？がいる一方で、一向にもてない雄がいるなど、様々なドラマが垣間見られます（アホウドリは雄がやや大きいことなどから、繁殖地ではある程度雌雄を識別できます）。



羽ばたく2月のヒナ、
右は雌親。

アホウドリのつがいは通常、毎年同じつがいが、同じ位置に巣を作り繁殖します。巣作りはいたって省エネ？で、座った状態で嘴の届く範囲から土や草を集めては自分の周りにポイと置きます。もぞもぞしながらそれを繰り返しているうちに、直径 50cm 程の円い巣ができあがります。でき映えは、立地と鳥の性格？に左右されるようで、ちょっとした窪みだけの巣もあれば、毎年高さ 20cm はあろうかという巨大な巣を拵えるつがいもあります。なお、雌が産む卵は年にひとつのみで、大きさは 12cm × 7.5cm 程で、日本で繁殖する野鳥の卵では最大です。ヒナが孵るまでは 65 日かかり、雌雄が交代で温めます。

アホウドリはおもに鳥島の 2 か所で繁殖しています。ひとつは島の南側の燕崎（つばめざき）といわれる場所で、絶滅寸前となった鳥島のアホウドリが最後に残った場所です。ここは、三方を高さ 100m 以上の崖に囲まれた海を望む急斜面で、まるで要塞のようです。人の居住地から燕崎の繁殖地へは片道 2 時間、核心部の崖ではヘルメットを着用し、ザイルを使う厳しい行程です。

燕崎は急斜面のため、ヒナや卵の転落のほか、雨水とともに崖の上から流入する砂礫によって、繁殖地の一部が鳥ごと埋まる危険があります。これらを防ぎ、繁殖地を保全するための対策が 1980 年代から行なわれ、現在では毎年 300 羽程のヒナが誕生しています。

もうひとつの繁殖地は人の居住地と同じく、島の西側の初寝崎にあります。ここは不安定な燕崎のみで繁殖していたアホウドリを、鳥の模型（デコイ）と、鳴き声によって誘致することでできた繁殖地です。すでにふれたように、初寝崎は広い草付きの緩斜面で、燕崎よりも安全かつ繁殖地としての「伸びしろ」も十分です。初寝崎での「デコイ作戦」は 1991 年に始まり、十数年をかけて新たなコロニーの形成に成功しました。近年の繁殖

数は右肩上がりです。昨年は 72 羽のヒナが育ちました。これは、デコイ作戦が始まった頃の燕崎と同じくらいのヒナ数です。



ハシボソミズナギドリ？

そして、鳥島で繁殖するアホウドリが順調に増えたことを受けて可能になったのが、小笠原諸島の鴛島へのヒナの移送と人工飼育です。昨年の 12 月から今年の 2 月にかけて、小笠原でアホウドリが産卵し、残念ながらヒナの誕生にはいたらなかったことは、大きく報道もされました。この事業は、火山島ではない島に新たな繁殖地をつくるために行なわれたものです。アホウドリ類は、育った場所を記憶しており、繁殖する場所を決める際にはそこに戻ってくるという予測にもとづいて、2008 年からの 5 年間に 70 羽のヒナが燕崎の繁殖地から運び出されました。運んだのは、生後 1 か月程の物心のついていない？ヒナで、2 月から 5 月まで人が餌を与えて育てました。そして、2008 年に運んだヒナの一部が巣立ってから 3 年後の 2011 年に予測通り鴛島に飛来し、その後、昨年末の産卵へとつながりました。鳥島から運んだアホウドリ

たちは今後，続々と繁殖できる年齢になります．目的はどうあれ，親鳥とヒナを引き離して行なった作戦です．後に「鳥

のためになった」といえる結果となることを切に願っています．



急降下する成鳥，初列風切の羽軸は白い．



崖下の燕崎コロニー，白い点がアホウドリ．

三重に飛来したシギ・チドリ類

津市 今井光昌

ヘラシギ

(幼鳥)

絶滅危惧 IA 類。シギ・チドリ類で嘴がヘラ状をした唯一のシギ。個体数の減少が著しく絶滅が危惧されている。三重県では春の渡りで記録はなく、秋に津市の海岸に稀に飛来する。これまで複数での観察例はなく単独での飛来であった。



オオチドリ

(成鳥夏羽)

夏羽は白くてのっぺりした顔で橙色の胸に黒帯がある。日本には稀な旅鳥として飛来する。

西日本で春と秋に記録されることが多いが三重県では春季に記録されている。ここ 10 年では南牟婁郡御山町と名張市で観察されている。

ソリハシセイタカシギ

(第 1 回冬羽)

稀な旅鳥・冬鳥として飛来する。隣県の愛知県ではしばしば記録されるが三重県では鈴鹿市派川に 2012 年 12 月に飛来した 2 羽が初記録となった。セイタカシギと違いソリハシセイタカシギは水かきが発達しているのでよく泳ぐ。



しろちどり 76 号(2013)

ハリオシギ

(幼鳥)

日本各地に旅鳥として少数が飛来するがチュウジシギ、オオジシギとの識別の難しさから見逃されている。南西諸島で多く見られ越冬もしている。名前の由来は外側尾羽6~8対が針状に細いところからつけられた。2012年に松阪市で成鳥、津市で幼鳥が記録された。



レンカク

(幼鳥)

インド、マレーシア、フィリピン、台湾にかけて繁殖分布する。夏羽の尾は著しく長い冬羽や幼鳥は短い。日本には迷鳥としてごく稀に現れる。南西諸島での記録が多い。三重県では松阪市と御山町で幼鳥が記録され成鳥夏羽が鈴鹿市で観察されている。

オオメダイチドリ

(成鳥)

日本には旅鳥として少数が飛来する。太平洋側に比べ日本海側や北日本では少ない。南西諸島での記録が多い。三重県の飛来数は少ないが毎年、春秋とも見られる。春は成鳥で秋は幼鳥が主である。成鳥は松阪市や志摩市で観察されることが多い。





サルハマシギ

(成鳥夏羽)

日本では旅鳥として春と秋に飛来するが数は少ない。三重県でも秋に幼鳥、春に成鳥が観察されるが毎年見られることはない。単独飛来が多いが2007年5月に成鳥10個体。2011年9月に幼鳥4個体の小群が津市と松阪市で観察されている。

コモンシギ

(幼鳥)

アラスカ、カナダ北部の北極圏で繁殖し主にアルゼンチンで越冬する。日本は渡りのルートから外れており稀に見られる迷鳥であるが三重県では志摩市と松阪市で記録された。エリマキシギ幼鳥と似ているが体が小さくのっぺり顔である。



アメリカウズラシギ

(成鳥夏羽)

シベリアの沿岸部、北アメリカ大陸の北極圏で繁殖し南アメリカ南部で越冬する。一部はオーストラリア、ニュージーランドに渡る。日本は渡りのコースから外れている。三重県での記録は幼鳥が多い。2012年津市で成鳥が観察された。

コオバシギ

(成鳥夏羽)

旅鳥として三重県にも少数が飛来する。春秋ともオバシギの群れに混じることが多い。秋の渡りでは毎年、数羽の幼鳥が飛来する。春は毎年見られることもなく単独が多い時でも2個体であった。鈴鹿市、津市、松阪市で観察されることが多い。



ヨーロッパトウネン

(成鳥夏羽)

日本は渡りのコースから離れており稀な迷鳥として飛来する。トウネンの群れに単独で混じることが多い。両種の野外識別が難しいこともあり三重県の記録は実際の飛来数より少ないと思われる。津市、松阪市で観察されることが多い。

ハイイロヒレアシシギ

(成鳥夏羽)

北極圏で繁殖し温・熱帯海域で越冬する。日本には旅鳥として春秋に現れるが三重県では春の渡り途中、海が時化たとき内陸に避難してきたものを見ることがある。秋は海岸から離れた洋上を移動し、春は海岸近くを移動していると思われる。





オオハシシギ

(第1回夏羽)

北東シベリア、アラスカで繁殖し、北アメリカ大陸南部からメキシコにかけて越冬しているが、日本でもごく少数の越冬が見られる。三重県には11月頃飛来し翌年の4月頃まで滞在する。松阪市と伊勢市で1~3個体の越冬が続いている。

コシヤクシギ

(成鳥夏羽)

シベリア東部の限られた地域で繁殖しオーストラリア、ニューギニアで越冬する。日本の各地で記録はあるが西日本での記録が多い。三重県では春秋とも観察されているが古い記録が多く近年では2011年松阪市で観察された。大型シギ、シヤクシギの中で最も小さい。



ツルシギ

(成鳥夏羽)

旅鳥として春秋に立ち寄る。春の渡来は早く3月初旬が普通だが早い年は2月の下旬に飛来することもある。三重県では過去に100羽もの飛来が見られたこともあるが年々減少し2013年は10羽であった。全身が真っ黒な夏羽になる5月中旬頃まで滞在する。

2012年秋から春へ

菰野町 矢田栄史

20年ほど前になにもわからないまま探鳥会に参加して以来、今では生きものを見ればじっと観察する習慣が身につきました。相変わらず菰野町の三重県民の森へかよっています。昨年11月下旬のある日、低木にウソの小群に気がつきました。シャシャンポの実をついばんだり、桜の冬芽をむさぼったりと森へ行けば必ず会えるという感じで毎回数羽のウソを観察できました。今までにないことです。あちこちで観察されたというクイタダキにも1月半ばによくお目にかかりました。僕はこの森では2回目です。哺乳類に会うチャンスはめったにありませんが1月半ば白昼にニホンジカ♀4頭が駆けるのを見たのは驚きでした。ニホンリスも以前はたまに姿をみかけてけどここ数年はまったく見ていません。そして自宅近くの三滝川で2月下旬にキレンジャク2羽がいました。1時間ほどリラックスして羽づくろいをしたり木の枝におなかをくっつけたりして飛ぶ様子もありません。この2羽はそれから3月6日まで観察できました。その後3月半ばにはヒレンジャクとキレンジャクの群れがやってきました。家から歩いて数分で行けるので毎日通いました。最高でヒレンジャク11羽とキレンジャク2羽を観察。そのあたりは近所の人の散歩コースです。スコープをのぞいていると声をかけられます。図鑑を見ながらレンジャクの説明をしたりスコープをのぞいてもらったりして話がはずみます。もちろん野鳥仲間にもおしらせをして何人かの人に来てもらいました。そうした観察中に、キレンジャクが虫をおいかけて僕のほうにむかってきます。多分2mほどまで接近してきて急に向きをかえ、近くの木にとまり食べてました。なんだか夢のような瞬間です。このあたりにはヤドリギはなく地面に降りてヤブランの実をついばんでいました。僕が最後に見たのは3月24日の朝7時ごろでヒレンジャク8羽が低いところを移動しながら飛んでいるシーンです。過去この場所で2回レンジャクを見て

いますがいずれもすぐにいなくなりこの春のように継続して群れで見たことはありませんでした。野鳥との出会いはいつも偶然でしょうがこれからも季節を感じながら観察を継続していきます。鳥からはじまりトンボやチョウ、蛾にもとても興味があります。夏鳥も4月29時現在オオルリ、センダイムシクイ、コサメビタキ、サシバ、エゾムシクイ、サンショウクイ、ヤブサメが例年どおり観察できました。

---追記---

津市 岡 八智子

3月21日 情報を頂き初めての探鳥地を覗きました。着くなり目の前にヒレンジャク・キレンジャクが忙しく草むらに下りたり、木々を飛び回っていました。どうもここではヤブランの実を食べているようです。河川敷の木々の下や土手に沢山ヤブランがあるようです。ヤブランを食べるのは初めてみました。先にヤドリギのヒレンジャクを見、次は何と街中の街路樹・ホルトノキの実を食べるのを見て今年は3ヵ所で見ることが出来ました。色んなのを食べるのを改めて知りました。青い空にツバメと飛び交ったり、新芽の出たヤナギに止まったりその美しい姿を堪能出来ました。この広い河川敷は本当に素敵な環境で沢山の鳥が居そうです。



事務局だより

活動記録 (2013年3月～4月)

- 3/1 会報「しろちどり第75号」発行
- 3/23 三雲文化協会主催の五主探鳥会に有志が協力
- 3/23～24 「しぜん文化祭 in おわせ」に出展参加
- 3/28 県委託調査事業の完成検査
- 3 決算・委託事業まとめ作業
- 4/10 松阪市、津市へ中勢海岸保全について申し入れ
- 4/14 第4回理事会
- 5/9 丸紅から木曾岬干拓地メガソーラー計画について聞く

今後の予定

- 5/12 会計監査
- 5/26 2013年度総会・中部ブロック会議第1回実行委員会
- 7/28～29 四日市市の東産業(株)主催の環境フェアに出展参加

理事会報告

第4回 (2013年4月14日) 津市雲出市民センター 出席者12名

○中部ブロック会議準備

運営委員の協力確認

当会からの参加者の経費は会から支出、300,000を予定

○中勢海岸保全

4月10日松阪市、津市に申し入れた。

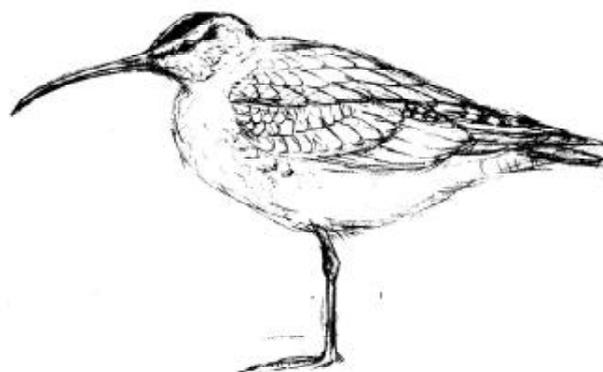
以降の働きかけ、松阪市＝鳥獣保護区設定など、
三重県、環境省中部環境事務所へも協力依頼＝事務局が出す。
明和町、保護団体、白塚、かめつぷり へも申し入れる。
祓川について 水鳥調査をする。

水鳥データのまとめ

パネルを市役所に展示、ラムサールのパネルを作る。

活動拠点＝旧三雲町役場(地域振興局)など：要検討

○三重県野鳥目録 協力会員のノートの検討、電子化、追加



チュウシャクシギ

○総会準備

名簿管理規定：字句を少し訂正＝総会で了解を得て、名簿を利用する。

探鳥会名簿については、会の勧誘などに利用することを明記した名簿を作り直し、催しの勧誘などに使う。

今期の決算は 30,000 ほど黒字、来期はオオタカ調査がなくなる。報酬を 10 % くらい減らす、300,000 ほど赤字になる予定。

○保険について

カワウ調査には舟を使う場合あり、(赤野島) 舟は保険が高くなる＝要検討

船を使う調査は削除することも検討。

カワウの調査は 7 月なのでそれまでに経費などを調べ検討する。

○しろちどり 76 号

4 ページをカラーに (五主海岸のシギチドリ) + ¥ 20,000 これをブロック会議参加者に配布する。

○ホームページ

保護活動、風力発電、猛禽調査保護、木曾岬干拓地

フィールドガイドを改変 中勢海岸ページを作る。

○名簿取扱い

○ RDB 調査 4 月から 10 月まで、なるべく数多く調査する。 5 月 12 日に会議あり。

○理事会予定 2013 年 8 月 25 日、11 月 17 日、2014 年 3 月 2 日

○総会予定 2014 年 5 月 18 日 県総合文センターを予約する。



取扱商品
フィールドスコープ
双眼鏡(小型・大型)
天体望遠鏡
カメラ(新品・中古)
その他光学製品各種

取扱メーカー
KOWA・NIKON・FUJINON
MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他

中部地区最大の光学製品専門店
TELESCOPE CENTER EYEBELL
テレスコープセンターアイベル (株式会社アイベル)
〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119
定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00
ホームページ <http://www.eyebell.com> メールアドレス eyebell@diamond.broba.cc

日本野鳥の会三重 2013 年度 総会

日本野鳥の会三重の 2013 年度総会は 2013 年 5 月 26 日(日) 三重県総合文化センターにて開催されました。以下のその資料の抜粋を掲載します。企画部の活動報告、活動計画は省略し、行事案内を参照下さい。また当会の活動を強めるため、名簿管理規程が提案され承認されました。総会では役員が改選されました。また、2012 年度決算報告、監査報告および 2013 年度予算案も承認されました。予算案のみ掲載します。

2012 年度活動報告

保護部 (抜粋)

1. ラムサール登録問題

2013 年 4 月 10 日に松阪、津、両市へ中勢海岸をラムサール条約に登録するために活動を始めてほしい旨申し入れた。松阪市役所で山中市長と会った。各紙に報道された。

2. 木曾岬干拓地問題

毎月 1 回チュウビ繁殖調査を進めている。昨年 2012 年は繁殖失敗であった。この 3 年間成功していない。北側での工事、干拓地周辺の環境変化も影響しているであろう。

3. 猛禽繁殖調査

中勢地方のオオタカは繁殖行動に入っている。県からの委託は 3 月末で終了した。

北勢地方のクマタカは継続している。

イヌワシの調査については公共工事のため、調査が困難になった。随時、調査する。

4. 風力発電計画

4-1. 度会町獅子ヶ岳

2012 年 3 月に準備書に対する意見を提出し、記者発表を行った。その後、6 月 3 日意見聴取会に近藤副代表が出席し、計画に反対の意見を陳述した。

4-2. 白猪山

アセスの枠組みが変わり、国(経済産業省)がアセスメントの担当することとなった。その結果、当計画については松坂市が独自で行ったアセスがそのままひきつがれ、ごく短期間に意見陳述を募集した。なお、計画のうち、白猪山山頂付近の風車は取りやめられた。なお、2013 年 1 月知事意見が出された。知事意見では鳥類については事後調査を指摘するのみであった。

4-3. 「度会町・南伊勢町風力発電事業計画」(荒谷建設)

国のアセスによって評価されるはずである。準備書が今年 2013 年提出される可能性が高い。

5. 野鳥記録については担当を独立させた

6. 三重県鳥類目録の作成にむけて、担当を決め、準備を始めた。

編集部

会報「しろちどり」は計 5 号を発行した。

2012 年 7 月 1 日 71 号、同 72 号(タカ渡り特集号)

2012 年 9 月 15 日 73 号、2012 年 12 月 1 日 74 号

2013 年 3 月 1 日 75 号

2013 年 2 月 パンフレット「素晴らしい海辺をいつまでも」を 1000 部印刷し、会員に配布。また、探鳥会参加者、津、松阪両市関係者、報道関係者に配布し、さら増刷した。

研究部

1. 委託調査

○平成 24 年度ガンカモ類及びカワウ一斉調査事業委託

調査日：1 月中旬、調査地点 177 ヶ所、調査者：35 名

○平成 24 年度カワウねぐらコロニー調査事業委託

調査日：年 3 回（7 月、12 月、3 月）調査地点 17 ヶ所、調査者：19 名

○平成 24 年度生物多様性調査「鳥類」業務委託

目的：三重県産鳥類の改訂レッドリストを作製するため、

調査：野外調査、文献調査、標本調査

2. モニタリング 1000（環境省生物多様性センター）シギ・チドリ類調査

調査日：各地で年 3 回（春期、終期、冬期）

調査地点：コアサイト：雲出川河口五主海岸、安濃川河口～志登茂川河口、愛宕川～櫛田川河口

一般サイト 鈴鹿川河口～鈴鹿派川河口、豊津浦～町屋浦、香良洲海岸、阪内川河口、城南干拓

調査者：7 名

企画部（省略、しろちどり各号の探鳥会報告をごらんください）

事務局

1. 総会 2012 年 5 月 26 日（土曜日）三重県教育文化会館 5 階 中会議室

2. 理事会

第 1 回 2012 年 8 月 5 日 津市雲出市民センター

第 2 回 2012 年 11 月 18 日 津市雲出市民センター

第 3 回 2013 年 2 月 3 日 津市 橋南市民センター

第 4 回 2013 年 4 月 14 日 津市雲出市民センター

第 5 回 2013 年 5 月 26 日 三重県総合文化センター

2013 年度活動計画

保護部

1. ラムサール湿地登録問題、「津市、松坂市と協力し、登録にむけて運動を進める。

ミヤコドリ、ズグロカモメについては会独自でデータを収集する。

2. 木曾岬干拓地問題

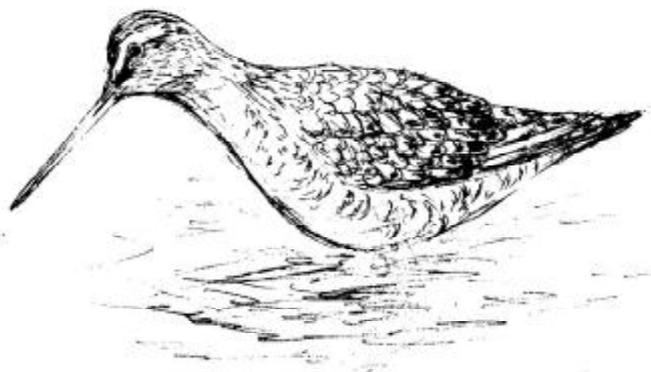
調査を継続する。チュウヒサ

ミットについて開催を検討する。

3. 猛禽類の調査、中勢地方の

オオタカは自主調査として継続する。

北勢地方のクマタカ＝観察を継続する。



オオハシシギ

研究部

今後も委託調査（ガンカモ類調査、カワウねぐらコロニー調査、生物多様性調査「鳥類」）シギ・チドリ調査を行っていく。

編集部

会報「しろちどり」を年間4回以上発行、随時カラーページを入れる。

企画部

（省略：探鳥会については行事案内を参照下さい）

事務局

総会 2013年5月26日

理事会 第1回 5月26日（以下予定） 第2回 8月25日 第3回 11月7日

第4回 2014年3月2日

新役員

長らく監事を務められた小林達也さんが退任され、次の方々が役員に選出されました。任期は2年です。

北勢地区：近藤義孝、安藤宣朗、川瀬裕之、

伊賀地区：前澤昭彦、

津地区：平井正志、石原 宏、岡 八智子、服部公子、

松阪地区：西村四郎、

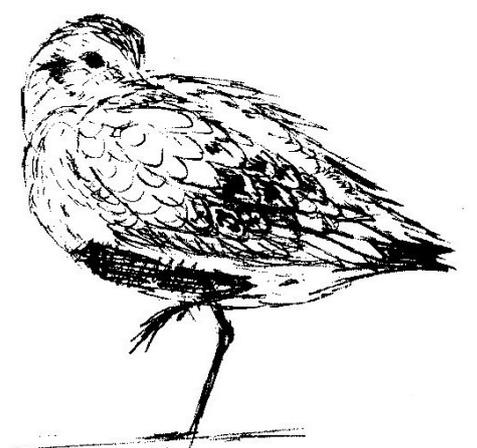
東紀州地区：中井説二、

南勢地区：中西章、小坂里香、西村 泉

また、総会会場で開かれた第1回理事会で次のように決定しました。

代表 平井正志 副代表 近藤義孝 事務局長 西村 泉

監事 石原 宏、岡 八智子



ハマシギ

日本野鳥の会 三重 25年度(2013年度)予算書

25年度 自2013年4月1日 至2014年3月31日

単位:円

科 目	25年度予算		備 考	25年度予算会計区分	
	一般・特別会計合算			一般会計	特別会計
<事業高>					
支部会費	640,000	2000円×320人	640,000	0	
受託収入	1,785,000	オオタカ調査終了減額	0	1,785,000	
受取補助金	0		0	0	
受取寄付金	7,000		7,000	0	
事業高合計	2,432,000		647,000	1,785,000	
事業利益	2,432,000		647,000	1,785,000	
<事業管理費>					
支払調査費	985,000	オオタカ調査終了減額	0	985,000	
報告費	20,000	オオタカ調査終了減額	0	20,000	
雑損費	186,000		0	186,000	
通信費	250,500		163,138	87,362	
印刷費	255,000		251,362	3,638	
消耗品費	86,000	前年腕章作成減額	61,902	24,098	
減価償却費	0				
会場費	123,000	中部ブロック大会開催増額	106,263	16,737	
会議費	124,000	中部ブロック大会開催増額	122,545	1,455	
旅費交通費	399,000	中部ブロック大会開催増額	230,696	168,304	
支払手数料	52,500		14,297	38,203	
講師謝礼金	40,000	中部ブロック大会開催増額	40,000	0	
図書費	0		0	0	
寄付金	0		0	0	
諸会費	5,000		5,000	0	
雑費	20,500	オオタカ調査終了減額	11,089	9,411	
事務費	50,000	オオタカ調査終了減額	0	50,000	
保険費	23,000		0	23,000	
一般管理費合計	2,619,500		1,006,292	1,613,208	
事業総利益	-187,500		-359,292	171,792	
<事業外収益>					
受取利息	1,000		1,000	0	
雑収入	20,000		20,000	0	
事業外収益合計	21,000		21,000	0	
当期純利益	-166,500		-338,292	171,792	
<税金等>					
法人税等	133,500			133,500	
税引後利益	-300,000		-338,292	38,292	

* 一般会計で338,292円の赤字、特別会計で38,292円の黒字、差引税引後利益は△300,000円となる

野鳥記録 (2013年5月10日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察年月日	観察場所 (三重県)	雄/雌/などの区別	記録報告者名	脚注
ズグロカモメ	15	2013年3月4日	松坂市 金剛川河口		平井 正志	1
ウグイス	1	2013年3月4日	津市安濃町東観音寺	初鳴き	平井 正志	2
キレンジャク	2	2013年2月26日	菰野町菰野 三滝川河川敷		矢田 栄史	3
コホオアカ	1	2013年2月23日	松坂市櫛田川河口		西村 四郎	4
ホオジロ	1	2013年2月7日	御浜町阿田和 寺谷総合公園	部分白化	清水 勝海	5
ツバメ	3	2013年3月12日	三重郡菰野町菰野	初認成鳥	矢田 栄史	6
ヒレンジャク	11	2013年3月18日	三重郡菰野町菰野三滝川 河川敷		矢田 栄史	7
アリスイ	1	2013年3月18日	三重郡菰野町菰野三滝川 河川敷		矢田 栄史	8
ツクシガモ	1	2013年3月17日	四日市市 鈴鹿川派川河口の 沖		阿部 裕	9
ビロードキンク ロ	1	2012年12月23日	四日市市 鈴鹿川派川河口の 沖	雄	阿部 裕	10
クロサギ	1	2012年9月1日	四日市市 鈴鹿川派川河口		阿部 裕	11
シマアカモズ	1	2013年2月24日	三重県四日市市 山村ダム		山神 勝治	12
コホウアカ	1	2013年3月3日	三重県四日市市 山村ダム		山神 勝治	13
クロジ	1	2013年3月16日	三重県菰野町北勢中央公園		山神 勝治	14
ヒレンジャク (内キレンジャ ク1羽)	20 (前 後)	2013年2月25日	中川新町2丁目の街路樹 (ホルトノキ)		小野 新子	15
アカアシシギ	2	2013年4月4日	桑名市 長良川河口堰 最西端付近		阿部 裕	16
オバシギ	2	2013年4月13日	三重県津市 安濃川河口周辺	フラグ付	片山 賢一	17
コマドリ	1	2013年4月11日	三重郡菰野町千草 三重県民の森	雄	矢田 栄史	18
コサメビタキ	1	2013年4月11日	三重郡菰野町千草	雄	矢田 栄史	19
ヤブサメ	1	2013年4月16日	三重郡菰野町千草	雄	矢田 栄史	20
オオヨシキリ	2	2013年4月18日	三重郡菰野町菰野三滝川	初認	矢田 栄史	21
アトリ	20	2013年4月20日	三重郡菰野町千草		矢田 栄史	22
エゾムシクイ	2	2013年4月29日	三重郡菰野町千草		矢田 栄史	23
サンショウクイ	4	2013年4月29日	三重郡菰野町千草		矢田 栄史	24
コシアカツバメ	9	2013年4月30日	三重郡菰野町菰野		矢田 栄史	25
ゴジュウカラ	不明	2013年4月16日	松坂市 迷岳山頂	不明	平井 正志	26
ノジコ	1	2013年4月30日	四日市市 山村ダム		山神 勝治	27
コムクドリ	20羽 以上	2013年4月30日	四日市市 山村ダム		山神 勝治	28
クロツラヘラサ ギ	1	2013年4月4日	松坂市高須町 金剛川河口		中村洋子	29
ソウシチョウ	複数	2013年4月25日	松坂市伊勢寺町堀坂峠		中村洋子	30
サルハマシギ	1	2013年5月5日	松坂市曾原新田の池		中村洋子	31
ノゴマ	1	2013年5月9日	松坂市嬉野中川 (我が家の 庭)	雄	小野 新子	32
セイタカシギ	22	2013年4月8日	津市河辺町 水田		岡 八智子	33

注：

1. 潮が引いていく時間に右岸でまとまって餌をとっていた
2. 初鳴き 姿は見えていない
3. 河川敷のヤナギで1時間ほどのんびりリラックスモード
4. ホオジロ類が沢山いる草むらにいました
5. 部分白化個体
6. 初認。朝の散歩中に近所の電線にとまり1羽がさえずっていた
7. 4日前に同場所でキレンジャクも観察している
8. 三面張りで少し低いところにヨシ原がありそこから僕に驚いて飛び出してきた
9. 沖合に一羽のみ、この後、同じ場所でスナメリも観察
10. アボセットの観察中に発見。おそらく、第一発見者
11. 県南部では普通だが、四日市では珍しい
12. 最初は、普通モズと思っていた
13. カシラダカと一緒に行動、1週間ほど滞在していた
14. 突然足元から飛び立ち杉の木に止まりました
15. レンジャクはホルトノキの実の種を丸のみして、種を排泄していることを確認
16. 県北部でのアカアシギはやや珍しいと思われる
17. 数十羽のオバシギ、ハマシギ、オオソリハシギの混群の中に緑色のフラグを付けた2羽を撮影した
18. 三重県民の森で声を聞いたのは初めて
19. 大きなコナラの高いところからさえずりが聞こえてきた。センダイムシクイやキビタキの鳴きまねも
20. 笹の生えた斜面から声が聞こえてきた
21. 夕暮れのヨシ原で声を聞く、4月末ごろに来ると記憶しているので10日ほど早い、大丈夫かい
22. 三重県民の森でアトリを見るのは久しぶりでちょっと驚いた
23. 三重県民の森ちびっこ広場で声を聞いた。木の上のほうで鳴いていて茂みにかくれて姿は確認できず
24. 県民の森行事の野鳥観察会で参加の皆さんと一緒に観察できた
25. 菰野町の赤川というところに毎年来て橋の下で営巣している様子
26. 姿は見えていない、ブナのこずえでさえずっていた
27. 新緑の葉っぱに隠れてゴソゴソ動いていました。
28. 20羽以上の群れでした。
29. 2日間の滞在でした
30. あちこちでさえずっていたが姿は確認できなかった
31. 夏羽であった
32. AM5:30頃 庭木の間を飛んでいる鳥を確認 赤い喉が印象的だった、夕方5時近くまで庭にいた
33. 前日の低気圧で渡りの途中避難してきたのでは？次の日はもう居ませんでした



ビロードキンクロ
阿部 裕

シマアカモズ 山神 勝治



コホオアカ 山神 勝治

オバシギ フラッグ付き
片山 賢一



しろちどり 76号(2013)



ノジコ 山神 勝治



クロサギ 阿部 裕

探鳥会報告

(2013年2月～2013年4月)

● 安濃川河口探鳥会

2013年2月3日(日) 10:00～12:00

津市高洲町 安濃川河口

岡 八智子 杉村滋弘 参加者24名(会員23名)

カワウ、アオサギ、マガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、ミヤコドリ、シロチドリ、ケリ、ハマシギ、ミユビシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ハクセキレイ、

ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計28種

満潮時、目の前の浜で休むミヤコドリを50羽程見られた。ウミアイサ、ホオジロガモも近くで、と思ったが今日は現れず残念。先に来ていたカメラマンによるとコクガンが5羽居たそうで、遠い海を探せどもダメだった。海岸ではミユビシギ、ミヤコドリが浜で休憩中。ハマシギ群のターンを繰り返す美しい飛翔シーンに感動。散歩の人が入ったようで、ミヤコドリの群れがこちらへ飛んできたので、美しい飛翔姿も見られて良かった。

● 木曾三川探鳥会

2013年2月10日(日) 9:00～12:00
桑名市・海津市・愛西市 揖斐・長良・木曾川

近藤義孝 参加者4名(会員1名)

カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミサゴ、オオタカ、ハイロチュウヒ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、オオバン、ケリ、タゲリ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、カワガラス、ジョウビタキ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、オオジュリン、カワラヒワ、ニューナイスズメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計46種

雪が舞っていた前日や前々日と打って変わり、日差しの暖かい日で風も弱く鳥見日和でした。

木曾川にいたコハクチョウ30羽など46種と比較的たくさんの鳥を見ることができました。

● 名張川探鳥会

2013年2月17日(日) 9:00～12:00
名張市 こも原

小林達也 田中豊成 参加者14名(会員9名)

カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、アオサギ、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、カワアイサ、ミサゴ、トビ、ノスリ、バン、イソシギ、キジバト、ヤマセミ、カワセミ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ウソ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計39種

厳冬期の名張川沿いでの探鳥でしたが、オシドリ、ヤマセミ等39種の鳥が観察でき、遠くから参加していただいたバーダーさんにも満足していただけたようでした。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2013年2月24日(日) 9:00～11:20
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 加藤雄也 参加者25名(会員12名)

カイツブリ(2)、カワウ(30)、アオサギ(1)、マガモ(2)、カルガモ(40)、コガモ(30)、オカヨシガモ(14)、ヒドリガモ(1)、ハシビロガモ(20)、ホシハジロ(10)、キンクロハジロ(2)、ミサゴ(2)、オオタカ(1)、ノスリ(1)、キジ(1)、オオバン(2)、タゲリ(2)、イソシギ(2)、カモメ(2)、キジバト(1)、カワセミ(1)、ヒバリ(10)、ハクセキレイ(3)、セグロセキレイ(2)、タヒバリ(10)、ヒヨドリ(10)、モズ(3)、ヒレンジャク(10)、シロハラ(1)、ツグミ(30)、メジロ(4)、ホオジロ(1)、カワラヒワ(10)、スズメ(100)、ムクドリ(30)、ハシボソガラス(400)、ハシブトガラス(100)、ドバト(20) 計38種

気温が低いだけでなく、風が強いためにとても寒い探鳥会になりました。鳥も冷たい風をさけるためかあまり出てきませんでした。

● 石垣池探鳥会

2013年3月3日(日) 10:00～12:00
鈴鹿市石垣町 石垣池

市川雄二 市川美代子 参加者8名(会員7名)

カワウ、アオサギ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、キジバト、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、カワラヒワ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計16種

寒さが身にしむ日でしたが、天候に恵まれた探鳥会日和でした。

石垣池のカモ類は、池干しで一時水量が減少したため、種類数・個体数が減少しました。しかし、ヨシガモ30羽、カルガモ・コガモ・ヒドリガモ少数が見られました。また、池の周辺ではモズ、コゲラ、セキレイ類、カラス類など、全部で16種の鳥類を観察することができました。

この探鳥会に、地元のケーブルネット鈴鹿からTV取材に来ていただきました。

● 外城田川中流探鳥会

2013年3月10日(日) 9:30 ~ 12:00

伊勢市 外城田川中流

橋本祐子 西村 泉 参加者13名(会員11名)

カワウ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、エナガ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計25種

数日前から急に暖かくなり汗ばむ陽気になりました。花粉や黄砂の影響か視界が悪く景色もかすんでいました。

川辺でハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイが、畑の堆肥が積まれた所でタヒバリ、ツグミ、ハクセキレイが観察できました。河畔林は低木がふえてよく繁り以前に比べ暗くなりました。また不法投棄も目立ちました。帰りは川から岸を見てもらおうと低水敷を歩きましたが、やぶにかくれているアオジがあちこちからとび出し、鳥をおどろかせてしまったのでよくなかったです。

長く歩いて頂いて、皆さんお疲れ様でした。



キジバト

● 海蔵川探鳥会

2013年3月12日(火) 9:40 ~ 11:40

しろちどり 76号(2013)

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬 裕之 参加者14名(会員12名)

カイツブリ、カワウ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ハシビロガモ、ノスリ、バン、ケリ、イソシギ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、メジロ、ホオジロ、アオジ、イカル、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト

計34種

朝から素晴らしい青空にめぐまれた今年度最後の探鳥会でした。

早春の雰囲気漂う中、自己紹介もそこそこに早速鳥見を開始しました。春の訪れを知らせてくれるようにツバメが空を横切りました。それを皮切りにホオジロがさえざる姿を皆で鑑賞しました。終始良い天気恵まれて鳥合わせを行ったらなんと34種という、僕がリーダーになってから初めて30越えという記録をつくりました。

今年度は天気に翻弄された探鳥会が多かったのですが、素晴らしい青空にめぐまれた今年度最後の探鳥会でした。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2013年3月24日(日) 9:00 ~ 12:10

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地 共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者21名(会員5名)

カイツブリ(5)、カワウ(65)、ダイサギ(3)、アオサギ(4)、カルガモ(50)、コガモ(200)、ハシビロガモ(40)、ホシハジロ(2)、ミサゴ(3)、オオタカ(1)、ノスリ(2)、チュウヒ(1)、キジ(1)、オオバン(1)、コチドリ(6)、ケリ(30)、クサシギ(1)、イソシギ(1)、ユリカモメ(1)、セグロカモメ(1)、カモメ(4)、キジバト(15)、ヒバリ(15)、ツバメ(4)、ハクセキレイ(4)、タヒバリ(30)、ヒヨドリ(15)、モズ(2)、イソヒヨドリ(1)、ジョウビタキ(2)、ツグミ(35)、ウグイス(3)、セッカ(3)、シジュウカラ(1)、ホオジロ(9)、アオジ(2)、オオジュリン(2)、カワラヒワ(10)、スズメ(100)、ムクドリ(15)、ハシボソガラス(50)、

ハシブトガラス(10)、ドバト(11)
計43種

風も無く、探鳥会日和でした。この時期に鍋田干拓地、木曾岬干拓地で観察できる鳥はほとんど見る事ができました。メガソーラーの予定地はまだ、工事は着工されていませんでした。

● 篠田山探鳥会

2013年3月31日(日)9:30~11:30
松阪市久保町 篠田山

宮田たつ 中村洋子 参加者21名(会員19名)

カワウ、カルガモ、コガモ、キジ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ミヤマホオジロ、アオジ、カワラヒワ、ウソ、シメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ
計27種

曇りだったけどスグ雨に降られてしまった。前日は暖かかったのに寒い日で…。

雨だったのに鳥は意外とたくさん見つけられた。ウソの群れ(10羽程)が見られた。桜の花は食べられてチラホラ状態。数年ぶりにミヤマホオジロが観察できた。

● 安濃川中流域探鳥会

2013年4月7日(日)10:00~11:00

津市 安濃川中流域

杉村滋弘 石原 宏 参加者18名(会員13名)

カイツブリ、カワウ、アオサギ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、バン、クサシギ、イソシギ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト 計26種

昨夜の嵐が去り晴れたので期待したが、探鳥会の時刻から大風となり、雨が降りそうになって1時間で切り上げた。期待のヒレンジャクは抜けて見られなかった。

会員のOさんの紹介で会員外から5人の参加があり、盛会であった。キジやカワ

セミの見られる場所でもあり、初めて探鳥される人向けの会場なので、来年の天気が良いことを願う。

何とか探鳥できてヤレヤレです。

● 五主探鳥会

2013年4月14日(日)9:30~11:30

松阪市 五主海岸・大池

西村四郎 小野新子 参加者22名(会員20名)

キジ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハシロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ケリ、ダイゼン、シロチドリ、ミヤコドリ、セイタカシギ、タシギ、オオソリハシシギ、ツルシギ、コアオアシシギ、ソリハシシギ、オバシギ、ハマシギ、ユリカモメ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ミサゴ、トビ、オオタカ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、セッカ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ、アオジ 計50種

雲出川の河口ではまだ潮が高かったですが、オオソリハシシギ、オバシギ、ダイゼンなど観察できました。潮が引くにつれて、上流側で今季初のソリハシシギが見られました。

カモ・カモメ類も一通り観察した後、五主池へ移動し、ハシビロガモ、ヨシガモ、オオバンなど池のカモ類を見ました。

その後、大池へ移動し、ツルシギ、コアオアシシギ、セイタカシギなど近くで観察できました。春のコアオアシシギは珍しかったです。

ただ、シマアジやコムクドリが見られなかったのは残念でしたが、50種類と満足できた探鳥会でした。

● 五十鈴川上流探鳥会

2013年4月20日(土)6:30~8:30

伊勢市 五十鈴川上流

杉原 豊 中西 章 参加者9名(会員9名)

カワウ、コサギ、アオサギ、サシバ、キジバト、カワセミ、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、クロツグミ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス 計25種

4月としては寒い朝となりましたが、新緑のまぶしい中、夏鳥の声を楽しむことができました。

キビタキ、オオルリ、クロツグミなど。オオルリはいつも見られる場所で今年も姿を現しました。アオゲラも姿を見せました。神宮林の上空にサシバ2羽(ペアと思われる)、営巢の可能性あり。

● 志原川及び水田探鳥会

2013年4月21日(日)9:00~12:00

南牟婁郡御浜町 志原

中井節二 清水勝海 参加者8名(会員6名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、ノスリ、キジ、ムナグロ、タシギ、セイタカシギ、キジバト、ヒメアマツバメ、アマツバメ、カワセミ、ツバメ、イワツバメ、タヒバリ、ヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計30種

こちらでは珍しいセイタカシギが見られました。またアマツバメやヒメアマツバメも見られて、見ていない人もありましたから、皆さん大満足の探鳥会でした。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2013年4月28日(日)9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者11名(会員6名)

キジ(2)、マガモ(2)、カルガモ(15)、ハシビロガモ(10)、コガモ(100)、カイツブリ(3)、キジバト(10)、カワウ(30)、アオサギ(7)、ダイサギ(3)、チュウサギ(5)、ケリ(15)、ムナグロ(13)、コチドリ(2)、チュウシャク

シギ(5)、クサシギ(1)、イソシギ(2)、カモメ(1)、ミサゴ(2)、トビ(2)、チュウヒ(3)、カワセミ(1)、ハヤブサ(1)、モズ(1)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(30)、ヒバリ(20)、ツバメ(10)、ヒヨドリ(1)、セッカ(8)、ムクドリ(10)、ツグミ(1)、スズメ(100)、ハクセキレイ(2)、カワラヒワ(5)、ホオジロ(1)、ドバト(12) 計37種

水田にムナグロやチュウシャクシギが入っていました。冬鳥は少なくなりましたが、鳥を見るには穏やかな季節になりました。

編集後記

友人であり、北海道に在住の今野さんに鳥島のアホウドリについて書いてもらった。読者の感想は如何に。我々が日ごろ見ることのできない場所と鳥である。調査の苦労も大変なものようだ。絶海の孤島で繁殖する海鳥がどうなっているかはそこへ出向いてしらべないとわからない。アホウドリは特に注目され、かつ研究者が継続して調査している成功例であろう。しかし、今野さんの述べているようにドブネズミの侵入で大きな打撃を受けている海鳥もある。三重県の離島、紀伊長島や耳穴島で繁殖する海鳥はどうなっているのか？これも心配である。(M.H.)

2013年6月20日発行

題字：濱田 稔

表紙絵：平井正志

編集：平井正志

発行所：日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印刷：伊藤印刷株式会社

514-0027 三重県津市大門 32-13

